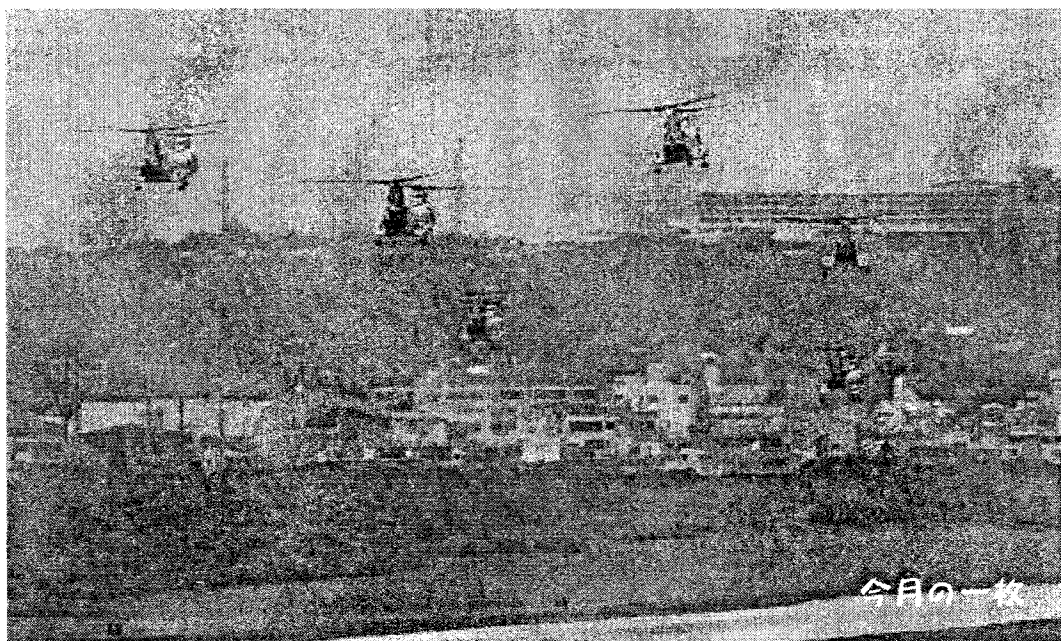


【月刊】

# キャッチピース

155

通巻 232 号  
08/07/20



今月の一枚

もうすぐ8月、普天間飛行場上空を旋回するCH46輸送ヘリ。(2008.07.08、リムピース提供)

## この号の内容

●ジョージ・ワシントンの横須賀母港

— そのもの見直しを求める二つの理由 —

●核兵器のない平和な世界を目指して

< 2月10日藤野町での講演から > その3

●オキナワから トウキョウから No.38

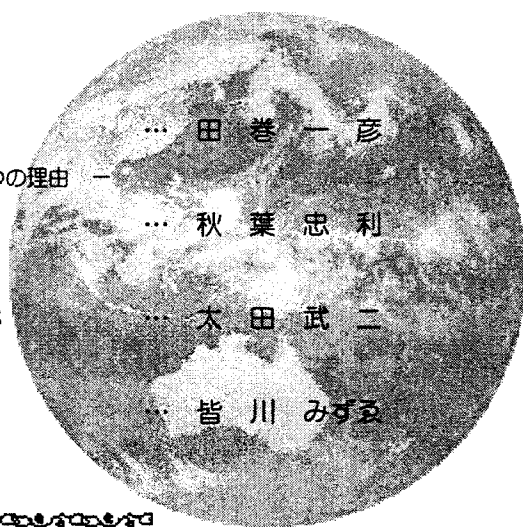
●オキナワの基地の二ヶ月

… 田 巻 一 彦

… 秋 葉 忠 利

… 太 田 武 二

… 皆 川 み ず る



編集発行人 ● 脱軍備ネットワーク・キャッチピース

● 維持会員 (月額) 個人1口1,000円 団体1口2,000円 ● 参加会員 (月額) 個人1口500円 団体1口1,000円

● 通信会員 (年額) 1口3,000円

(会費には本誌購読料が含まれます)



# ジョージ・ワシントンの横須賀母港

## —そのもの見直しを求める二つの理由

田 巻 一 彦  
(キャッチピース運営委員)

横須賀市長と議会が原子力空母「ジョージ・ワシントン」の母港受け入れを決断した理由は、1. 安全保障問題は国の専管事項であり、横須賀市には決定権がないことと、2. 原子力空母の以外の選択肢(通常型空母の継続)がゼロである以上、反対をしても仕方がないということであった。

また市長と議会は、受け入れの条件として、「安全」を徹底すると約束した。そのことは、「住民投票条例案」否決の日に出された、市議会の意見書にも書かれている。

今、起こっていることは、「受け入れの理由」、「安全」という市民への約束」が厳しく問われる事態である。

### 1. まだ、通常型空母がある

空母 12 隻体制の継続か、それとも 11 隻に削減するのか、この問題をめぐる議会と

海軍の綱引きは、「キティホーク退役、原子力空母の交代配備」という方針と深く関わっていた。結論的としては、06 年 10 月に海軍と議会の妥協によって、「11 隻体制」が決まった。

最後に残された通常型空母 2 隻のうちの「ジョン・F・ケネディ」も退役し、今ではフィラデルフィア海軍工廠に退役艦として保管されている。ただし、議会の命令で、ケネディは「モスボール」と呼ばれる保存処理が行われ必要とあれば現役に復帰できる状態である。

ところが、この 4 月以降の米議会の議論を見ると、どうも通常型空母「復活」が選択肢となってきているようなのである。「11 隻体制」というのは「全部が原子力艦」とほぼ同じ意味だったのだが、どうも、それだと、空母の「やり繰り」が上手くゆかな

いというのだ。

キティホークの次の空母の退役予定は、2013 年の原子力空母エンタープライズ(CVN65)である。しかし、エンタープライズの後継艦ジェラルド・R・フォード(CVN78)の就役は早くても 2015 年。この間に 2 年から 3 年の空白、つまり空母が 10 隻に減少する期間が生じる。これを理由に、海軍は「11 隻体制」を一時的に「10 隻体制」とすることを許してほしいと議会に求めた。

これに対して、下院の軍事委員会は、海軍の要求を拒否し、その代わりに海軍長官に対して、「ケネディの現役復帰かキティホークの現役継続」によって 11 隻体制を維持する可能性を検討し、09 年 2 月 3 日までに議会に報告するよう求める「委員会報告」(次ページの囲みに当該部分の全訳)を提出、下院は「10 隻体制」を容認する条項を削除した法案を可決(5 月 22 日)、上院に送付した。報告書の問題の部分の全訳を囲みに示す。

この議論の決着にはまだ数ヶ月を要すると予想される。また、議論の動機は、一時的な 10 隻体制をどうするかという米国、とくに海軍の事情だ。しかし、横須賀にとって重要なことは、「キティホーク退役の後は原子力空母しかない」という日米政府の説明が、実はウソだったということだ。2013 年ごろの「空白問題」は最初からはっきりしていたし、それを「通常型空母」で埋め

るという選択肢も米国は一貫して持っていた。横須賀市長と議会はこのウソをまるで「宿命」のように考えさせられ、振り回されてきたといえる。

今こそ、「原子力空母の母港拒否」を、日米政府に主張するべきときだ。

### 2. 火災実態の公開と説明を、

さもなくば配備拒否を

ジョージ・ワシントン横須賀配備の日が遅れている。5 月 22 日に起きた火災によって、8 月 19 日に予定されている同艦の横須賀配備日程は 9 月以降に延期された。火災の全貌はまだ公開されていないが、空母はかなり深刻なダメージを受けていると思われる。海軍は「原子炉には関係ない」と言っている。しかし、ちょっとした電気系統や給排水系統の障害だけでも、深刻な事態にむすびつのが原子炉の怖さである。

火災原因の究明と公開、地元への説明が納得できる形でおこなわれない限り、市長も議会もジョージ・ワシントンを受け入れられないはずである。5 月 16 日、住民投票条例案を否決したその日に議会が採択した「意見書」(前号に全文)は、国に対して求める第 1 の項目として「原子力空母の安全性確保及び防災体制の強化」を上げた。その試金石が、今日の前にあるのだ。

(たまきかずひこ)

<資料>

「09 国防認可法」(H.R.5658)に関する委員会報告

2008年5月16日

下院軍事委員会

第1部「国防総省予算」/タイトル1「調達」/艦船建造及び改修/特段の重要事項

航空母艦の戦力構成

委員会は連邦法典タイトル10・第5062節が、国防総省に対して11隻の現役航空母艦を維持することを求めていることに留意する。委員会は、国防総省がエンタープライズ(CVN65)の退役予定時期とフォード(CVN78)が初期作戦能力を達成する時期との間の期間について、この法的要求を免除する立法を求めていることを認識している。特に、最近、2007会計年「ジョン・ワナー国防認可法(公法109-364)」第1011節において、国防総省は航空母艦の法定数を12隻から11隻に減少させることで議会との妥協に達したばかりであることから、とりわけ委員会は国防総省の立場に懸念を抱いている。さらに委員会は、エンタープライズの退役からフォードの初期配備能力達成までの期間は少なくとも33ヶ月が予定され、新クラスの第1号艦であるフォードの建造プロセス及び就役後の試験及び評価期間によってはこれが4年以上となる可能性があることに留意する。

それゆえに、委員会は、2013年にエンタープライズを退役させるために第10章・第5062条を免除せよという国防総省の要求を拒否する。しかしながら、委員会は、2013年以降もエンタープライズを現役に留まらせる場合には、修理施設におけるメンテナンスの日程及び経費の上で重要な影響が生じること、またオーバーホールを行ったとしてもエンタープライズの燃料の寿命には限界があることを理解する。

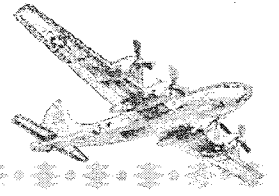
したがって委員会は、海軍長官に対して、エンタープライズの退役からフォードの就役までの期間、ケネディ(CV67)を現役に復帰させる、あるいはキティホーク(CV63)の現役を継続させるという二つの場合の経費及びスケジュール上の影響に関する報告書を、議会の国防関係委員会(複数)に提出するよう命じる。委員会は海軍長官に対して、ケネディまたはキティホークをドックに入れ修理を行う能力のある、国内の公営及び民間造船所のドライ・ドックの数と場所を報告書に含めるよう命じる。

同報告書は、本法律の発効後90日以内に、ただし、いかなる場合においても2009年2月3日以前に、提出されなければならない。

(訳:ピースデポ。『核兵器・核実験モニター』第306号(08/6/15)より転載)

「平和都市広島と藤野・相模原市を結ぶ」実行委員会

「秋葉忠利広島市長を招いて」講演より抜粋



# 核兵器のない平和な世界を目指して

## — 21世紀は市民の力で問題を解決できる時代 —

広島市長 秋葉 忠利

### その3

被爆体験を未来に伝えるために  
それから、これはみなさんにもお願いしたことです。平和市長会議では2020年までに核兵器を廃絶しようという運動を、今世界的に起こしています。それが成功するためには、やはり世論の高まりが必要です。みなさんが、国際政治だから、例えば、自治体がものを言ってもだめだとか、ひとりの市民が声をあげてもだめだというふうに思いこまず、世論を高めること、できるだけ沢山の人が一緒になって世界の政治を動かすんだという、そこまで先を読んで行動することが必要になります。

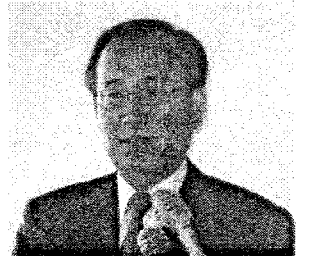
### 映画をきっかけにして

まず、今まではあまり話をしなかった、けれども原爆のこと、核兵器のことを、できるだけいるいるなところで問題にし、話を始めてほしい。でも、突然さっきお見せしたような写真をもって行ってそれを見せるということは、たしかにショックを与えるという意味では大きなインパクトがありますが、「この写真を見て、こんなひどいことがあるんだ」といきなり話

をし出したら、最初の一人二人は来てくれるかもしれませんが、「いや、あの人が来ると原爆の写真を見せられるから...」とだんだん敬遠されるかもしれません。むしろかいですね。

まず、平和の話から始める、それが一つです。それからクイズから始めるというのもあります。さっきいくつか核兵器の特徴を言いましたけど、クイズ流行ですからクイズで「君、こんなこと知らないだろう」と問うのも話を始めるよいきっかけになります。が、それよりも映画を観る話の方が簡単です。

「いい映画を観たよ、いい話だったよ」と観た映画の話をしてあげる。女優さんの話から始めてもいいです。「宮沢りえ、きれいだったよ」というところから話してもいい。



公演中の秋葉忠利広島市長

「原爆の子」、これは1952年にできた映画ですけども、私はこの映画を観て二日間寝込みました。小学校四年生の頃だったと思います。

それから「渚にて」、これは高校生のときに観ました。いい映画です。グレゴリー・ベックとエバ・ガードナーという名前が顔られる方もいらっしゃいますね。

あと最近の映画ですけど「夕凧の街桜の園」、これは去年の映画ですが、いい映画です。この史代さんの漫画が先に出版されています。

それに「父と暮らせば」、宮沢りえさんが出演していますが、井上ひさしさんの戯曲が映画化されたものです。

それから「ヒロシマ・ナガサキ」、スティーブン・オカザキという日系三世がつくったアメリカの映画ですけど、HOPというあのケーブルTVの配給会社が全米に流してくれました。日本語版も出ています。

それと「はだしのゲン」、これも漫画が先で、中沢ケイジさんの漫画が映画化されています。

「かあべえ」、これは原爆に直接関係ありませんが、山田洋次監督がつくった映画で、吉永小百合さんが出演しているとてもいい映画です。

映画を観て、映画を話のきっかけにして、核兵器についていろいろと一緒に考え、議論を始めるということとは可能だと思います。

### 広島・長崎講座 <知的な伝達>

その他に、広島市として力を入れているのが広島・長崎講座です。

平和教育はいろいろなレベルで行われていますが、広島の場合、小中高のレベルでは、例えば「被爆教師の会」という組織を被爆した先生方がつくって、ずいぶん努力して頑張ってきました。そして、一応のレベルに達している。だけど大学レベルでの十分な教育と

研究が行われていないというのが、私の認識です。そこで広島・長崎講座という名称をつけて何をやらせたいかということ、一つには先程申し上げた被爆者の実相をきちんと伝えてほしい。もう一つは、被爆者のメッセージ、他の誰にもこんな思いをさせてはいけないんだというメッセージをきちんと伝えてほしい、和解の哲学を伝えてほしいということです。

これをただ単に、情緒的なメッセージに終わらせるのではなく、学問的な大系をもった整理された知識、整理された経験として大学で教えてほしいというのが、この広島・長崎講座の目的です。

レジメにはデジタル化と書いてありますが、ただ単に地上波デジタルでこれを流すという意味ではありません。

みなさんが被爆者の話を聞いたときに感動しますね。私は被爆者ではありませんから被爆者の話を聞いたとき、感動しました。被爆者の話を聞いて感動したということ、次の人に伝えたときに、その私の話を聞いた人が、被爆者から直接話を聞いた私よりも感動は当然、私より少なくなります。その人が、いい話だったとまた別の人に話すと、いい話だったということはどうも伝わるけれど、心の中の本当のインパクトは伝わらない。

みなさんも経験があると思いますが、昔、ビデオでいい映画が撮ってあるよというので、それを借りてダビングをしますよね。友達から借りたテープでダビングして、それからまたダビングするといった具合にダビングを重ねていく。すると画像はどんどん劣化して、最後には雨が降ったようにしか映らない。それはアナログだからです。

今はデジタルの時代になりましたから、何回コピーしても画像が劣化しない。それと同じように、被爆者のことばそのままではないかもしれないけれど、学問

的に整理して、それをきちんと劣化しないような形で伝えていく、それは要するに学問的な大系化をすることなのです。ということで、今、努力していますが、現在世界で三〇くらいの大学が協力してくれています。

### 国内外での原爆展の開催

それから、これは今までもずいぶんいろいろなところでやってきているんですが、原爆展の開催もずっとつづけています。国内でも国外でもです。今年はずいぶんブラジルで広島市と長崎市が協力して原爆展を開きます。

それともう一つ、去年と今年二年かかって、アメリカ全土で百一カ所での原爆展を開こうということをやっています。ワシントンDC、ほかあと五〇州ありますが各州で一つずつ、一月に南部の何州かで原爆展を開きますが、マスコミがこれをテレビで積極的に取りあげてくれました。

これがなぜ大事かということ、アメリカの大統領選挙ではイランで核兵器を使うんだというようなことを言わないと大統領候補としての重みがない、そんなことを平気で言う候補が何人もいます。

それは被爆者あるいは我々の視点から見ればとんでもないことなんですけども、そういったことを平気で言って、それがどういう意味をもつか分からない人が大勢いる社会ですから、原爆展を開いてもう一度、しかも政治的な関心が高まっているときに、被爆の実相はぜひ伝えていこうということいろいろ苦労しています。このなかで実は、アメリカの都市にがんばってもらって原爆展を開いてもらおうと考えています。

### 核兵器廃絶に立ち上がる都市

核兵器廃絶のために今、都市が立ち上がって平和市長会議をつくっているんですが、これは、1982年につくられた組織で、今、世界の172の国と地域で2028の都市が加盟しています。この平和市長会議

の目標は、2020年までにすべての核兵器を廃絶する(最終目標)、2010年までに核兵器の禁止条約を制定する(中間目標)ということです。

この2020年ビジョンを始めたのが2003年の十月ですが、(写真を示して)下の写真はいずれも、2005年のNTP(核不拡散条約)検討会議がニューヨークで開かれましたが、そのときの写真です。

右側は、国連における平和市長会議カンファランスを開いた際に、当時の国連事務総長コフィ・アナンさんが来てくれ激励してくれている場面です。

左側の写真で一番左にいる白髪の男性はアメリカ、オハイオ州のアクロン市長で、彼は全米市長会議の会長です。市長会議というのは、アメリカ全土の人口三万人以上の都市が1139集まった組織で、アメリカの都市のほとんどすべてがこの会議に属しています。その全米市長会議が、2020年ビジョンと一緒にやりましょうと支持決議を満場一致で二回にわたって採決してくれています。

アメリカという国家レベルでは、アメリカは「核兵器万歳!」、大統領候補もイランで核兵器を使うなんてことを平気で言うんですけども、市長レベルでは話がちがうんですね。核兵器を廃絶しなきゃいけない、2020年までにそれを実現しようということを言っています。

### なぜ都市なのか、なぜ市長なのか

では、都市がなんでそんなことをやっているのか。アメリカの場合だと、国と都市では政策がちがう。他の国でも、ちがうところはありますが、その一番大きな理由は、原爆ができてから今年で63年になるわけですが、この間、世界中のほとんどの市民は、国がこの問題について何かやってくれるだろうと、国の専権事項だからというので、国に期待してきました。だけど、何も起こっていない。残念ながら、核兵器は廃

絶されていませんし、アメリカ大統領選挙のように…、要するに国レベルになると日本でも事態は進んでいません。このまま国家に任せていたんでは、人類が滅亡してしまいますよ、そういう危機感があって、人類が滅亡すると分かっている何もしないのは無責任だから行動を起こそうというわけです。

昔の教科書には、オランダの防潮堤の話が出ていたのを覚えている方もいらっしゃるでしょう。オランダの子ども達は、自国の国土が水面下にある、海面よりも低いということ、だから防潮堤に少しでも穴が開いたらすぐに知らせなさい、市民が死ぬほどの大問題になるからかならず知らせなきゃいけない、ということを徹底的に教えこまれます。

ある日、ある少年が防潮堤からチョロチョロ水が漏れているのに気づく。そのことを知らせようにも、まわりには誰もいない。仕方なく、少年は着ていたシャツを脱ぎ、穴に腕を突っこんだまま一晩過ごしたところを発見され、防潮堤が崩れるのを防いだ。こんな話を、私は小学生のとき教科書で読みました。

今、市長がやっているのはまさにそのことと同じなんです。だから、市長でなくとも、みなさんでもいい。ともかく核兵器が使われるかもしれないというその危険性が高まっているときに何かをしなきゃいけない、気づいた人が「水漏れ」がしないようにともかく行動しないと、人類の滅亡につながる。その危機感を私達も持っている。市長のレベルではもっています。

国がやらなければ都市（市民）がやる  
同時に、21世紀というのは、市民の力で問題が解決できるんだということを、市長レベルでは、私達は分かっています。

その一番よい例が環境問題です。これは、四年前に広島で日米都市サミットを開きましたが、そのとき出てきた結論は、21世紀は都市が世界を引っ張るんだ、

ということでした。これは、当時のホノルル市長だったジェラミー・ハイツさんが実は言ったことですが、アメリカは京都議定書（CO<sub>2</sub>の6%削減）を批准していません。でも温暖化は進んでいる。で、そのときどうすればよいか。連邦政府がちゃんと責任を果たさない、そのときでも都市が責任を果たせば、都市ガバナンスを握って行動すれば、温暖化は防げる。各都市がCO<sub>2</sub>の排出量を決めて、その規制をアメリカのすべての都市が守れば、国が京都議定書を批准したのとまったく同じ結果が得られる。それだけの実力を都市はもっているし、それだけの責任があるのだから、都市がまず行動して、引っ張っていかなくちゃいけない、と言ったんです。

21世紀は市民の力で問題を解決できる時代だ、それが世界の都市のグローバルな問題に対する対処策、逆に言うと、人類の叡智、いろいろな叡智をもとにして市民の声が国際政治を動かす時代になった、それが都市の使命でもある、ということです。

(つづく)

本講演の途中で市長から示された写真資料及び解説は、割愛させていただきました。  
なお、この連載は次回で完結する予定です。



嘉手納基地の戦闘機 F/A18 ホーネット (リムピース提供)

### 体調の悪さを乗り越え富士登山

今月号の原稿を書くとしている今、私の体調はかなり酷い状態です。気管支の咳と鼻腔の炎症、そして全身が疲労発熱状態で、いわゆるカッタル＜眠い＞症状の三日目なのです。それでも久しぶりの低体調の原因を理解しているので、精神的には逆に感謝、感謝の高揚状態が続いています。

ということで、その種明かしをしますと、この7月7日、洞爺湖サミットの開催日、七夕さまの日に富士山の頂上、剣が峰に登ってきたからです。山登りなんて私の人生では、まったく経験してこなかったことです。それを突然、日本最高峰の富士山へ登ったのですから、その反動がくるのは当たり前のことと覚悟していました。しかも、その時の天候が8合目を境に、冷たい雨と強風という最悪の状況の中を、薄い空気と気圧に耐えて深呼吸を繰り返しながら登り続けたのですから、無事に帰って来ただけでも幸せ者だと思っています。

では、その幸せな機会を作ってくれたのは、どういう縁だったかということですが、それは、前号の最後のところに書いた「オキナワから平和を発信」の琉球の宗教と関係しています。

沖縄には、いわゆる霊能者としてユタ、ノロという女性たちが大勢います。総じて神人（かみんちゅう）とも言いますが、私が今回出会ったのは、18歳になる女性でした。5月15日から18日にかけての帰沖の時に、彼女の母親に会い、いろいろと話を聞いたり、資料を見せてもらっていたのです。その時の印象を一言で表すと、童神（わらびがみ）そのまま成長した女性だということでした。沖縄では、昔から生まれてくる赤ん坊を、神様からの授かり者、神の子として大事に、大事に育てる慣わしがあったからです。

その彼女が、今年のはじめ頃に「7月7日に富士山で、平和の祈りをしなさい」という神さまからのお告げを受けたということから、結局沖縄から6人、首都圏の沖縄人や日本人たち20名ほどで、そのうち男

性が8人、女性18人が参加したのです。しかも参加者のうちで高山登山経験者は、私の友人一人だけというメンバー構成で出発は、6日の日曜日。私の運転するマイクロバスに16人ほどが乗って一路富士山へ。表富士宮口の5合目に到着したのが、午前11時ごろ。既にその標高は、2400メートルもあり、昼食休憩と体慣らしで時間をつぶしてから登頂開始が午後1時ごろでした。

その日の予定は、3010メートルにある元祖7合目の山小屋で宿泊ということで、比較的ゆっくり登り、約5時間がかりで辿り着き、すぐ夕食。そして、風呂なしで午後8時消灯ということなので、持参した泡盛と値段の高いビール、日本酒を分け合って飲み、翌日のご来光を楽しみに寝床のベッドに着たきりすずめ状態で入りました。

### 富士山の7月7日

運命の日の7日は、午前4時前からの激しい雨の音で、目が覚めました。ご来光の希望が絶たれて、また一眠り。しかし、頭痛と吐き気の高山病の軽い症状を感じながらも、6時ごろ朝食を済ました頃には雲が切れてきたということで、登山続行と決定。その準備の過程で驚かされたことは、朝の7時ごろから始まった自衛隊の実弾演習の激しさでした。最初は、雲の下で雷雲がなっているのかと思っていたのですが、山小屋のご主人曰く「また税金の無駄遣いが始まった」とのこと。

その砲弾演習は、なんと私たちが頂上を極めて下山し終える直前の午後4時近くまで続いたのです。その音が聞こえる度に、悔しさと怒りでわが身を励まし

て登り、下ったかのような感じさえするほどでした。その後、3250メートルの8合目まで来たときは、雨も激しく降りだしたことから、その神人がここで祈りをすると決断し、お供え物を並べ、鈴を鳴らし、ビデオを回して祈りが始まりました。

それはちょうど北海道の洞爺湖でG8サミットが始まった時刻だったのかと思っていますが、参加者一同で祝詞を唱えた後で、一人づつ順番で指定された祝詞を唱えることになり、私が読まれたのが「カムアシキネ アマタナムカイ アマアメ オホトノチ オホトノベ アマクニムカヒ トフノチ 空の神様 空を守っている。羽衣を着ている空をきれいにしなさい。地球環境の大切さを知りなさい」という文章だったのです。

その言葉は、世界からアイヌモシリ(北海道)に集まってきている先住民族、とりわけアイヌ民族の言葉に似ているという印象を受けました。そして、環境サミットとって洞爺湖に集っている首脳たちのまやかしと東富士演習場という広大な自然を破壊している自衛隊の実弾演習に対して平和の祝詞を発したという感動を覚えたのです。

その祈りを終えてからは、ほとんどの参加者は下山を始めたのですが、既に頂上を目指して登って行った人が二人いたことが分かり、私と男性3人もとりあえず頂上を目指すことにしました。

そして、結局私ともう一人の友人だけが最高峰の剣が峰にたどり着くことができたのですが、頂上に近くに連れて、冒頭に書いたように風雨が激しく、残雪もあり、休憩する山小屋や神社もしまっているという



8年と1549日目(08/7/15、辺野古浜通信より)

オを回して祈りが始まりました。それはちょうど北海道の洞爺湖でG8サミットが始まった時刻だったのかと思っていますが、参加者一同で祝詞を唱えた後で、一人づつ順番で指定された祝詞を唱えることになり、私が読まれたのが「カムアシキネ アマタナムカイ アマアメ オホトノチ オホトノベ アマクニムカヒ トフノチ 空の神様 空を守っている。羽衣を着ている空をきれいにしなさい。地球環境の大切さを知りなさい」という文章だったのです。

い。地球環境の大切さを知りなさい」という文章だったのです。

その言葉は、世界からアイヌモシリ(北海道)に集まってきている先住民族、とりわけアイヌ民族の言葉に似ているという印象を受けました。そして、環境サミットとって洞爺湖に集っている首脳たちのまやかしと東富士演習場という広大な自然を破壊している自衛隊の実弾演習に対して平和の祝詞を発したという感動を覚えたのです。

その祈りを終えてからは、ほとんどの参加者は下山を始めたのですが、既に頂上を目指して登って行った人が二人いたことが分かり、私と男性3人もとりあえず頂上を目指すことにしました。

そして、結局私ともう一人の友人だけが最高峰の剣が峰にたどり着くことができたのですが、頂上に近くに連れて、冒頭に書いたように風雨が激しく、残雪もあり、休憩する山小屋や神社もしまっているという

過酷な条件が加わり、ほとんど修行僧のような感覚で降りてきたのです。

### 下山の厳しさで自然の偉大さを感じる

その下山の厳しさがまた想像を超えるものでした。火山礫や大きな岩のギャップを踏みしめるたびに、ひざの関節が悲鳴を上げるといっても過言ではないほど。登るときよりも立ち止まる回数を増やし、呼吸を整えないと足がもたない感じでした。高山経験者の友人が頂上まで登らずに一定早く降りて行った先見の明を文字通り痛感したのでした。

更に初体験の登頂と下山の途中で感じたことは、なんとと言っても自然の偉大さと人間の小ささでした。とりわけ、広大な面積を占有して緑の大地で自衛隊が続けていた実弾演習には、その砲撃の音が聞こえる度に、繰り返される戦争の悲劇を知っていながらそこに拘泥している人間の愚かさや戦争行為によって経済と政治利権の拡大を狙う軍産複合体への怒りで体のエネルギーが奪われた感じでした。

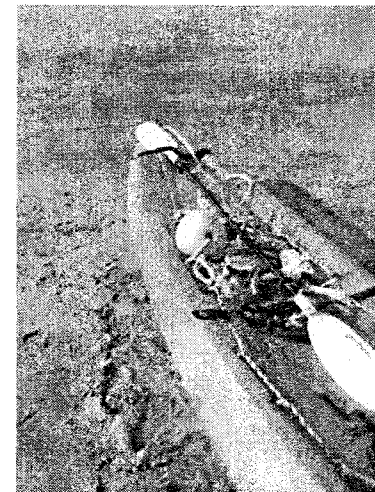
とはいっても無事に降りてこられたのは、途中で出会う多様な人々との励まし合いと挨拶だった気がします。人間は本来優しいものだと思わせてくれた出会いがたくさんありました。

### 無策の洞爺湖サミット首脳

その洞爺湖サミットは、当初予定されていた通りに具体的な成果を世界に約束しないまま閉幕しました。食糧、原油、資源などの高騰によって世界に貧困と飢餓が広がる一方で、金満資本と國家がより莫大な利益を求めて国境を越えて巨大資金を運用するという悪循環を断ち切る意思すら示せなかったということです。

それどころか、各地で事前に開催されたサミット関連行事はもとより、本番の北海道洞爺湖周辺、首都圏の過剰警備は、日本の警察、警備までアメリカ式に組み込まれたという現実を見る思いがしました。つまり、日米軍事再編という米軍の下に自衛隊を組み込む一体化と同時進行で、海外からのテロ防止という名目の下に警察警備まで変えられたということです。

因みに警視庁のバトカーや機動隊の乱闘服のデザイン文字に「POLICE」というアルファベットが入るようになったのは何時ごろからだったのでしょうか。今回の空港での韓国からの労働者を監禁した上で、入国を拒否して強制送還した行為は、かつての韓国やフィ



辺野古のカヌー(08/7/10、辺野古浜通信より)

リピンの軍事政権時代のことであり、2001年以降の対テロ戦争國家である米国方式でしかないのです。そして、ピースパレードの一連の表現行為だったサウンドデモについても、先導車の窓ガラスを壊して運転手を逮捕するなどの手口は、民主警察の法的規制を壊す暴力的な破壊行為にほかなりません。

まさにサミット首脳の無策振りがもたらす今後の世界経済、政治

の破綻に対する回答を予告しているような感じですが。それは、人権、生存権、環境問題などへの抵抗を「反テロ」の枠に入れ込んで、暴力的に圧殺するというおき出しの暴力的弾圧を辞さないという宣言のようなものです。

### 沖縄議会の一大変化

そのサミットを前にした沖縄では、大きな変化が起きました。それは、沖縄県議選で県政与党の自民党と公明党が過半数を割り込み、野党勢力が26議席と

過半数を大幅に上回る結果になったことです。こうした与野党逆転は、1992年の復帰20周年の時以来のことです。しかし、16年前は、大田知事当選から2年後のことで、まだ公明党が革新勢力一翼を担っていたときでした。その公明党が1998年に与党へと鞍替えしてからちょうど10年という中で与野党逆転の意味はより大きなものがあったのです。

県議会（高嶺善伸議長）の野党会派は、米軍普天間飛行場の名護市キャンプ・シュワブ沿岸部への移設反対の決議案を開会中の六月定例会に提出し、日米両政府が合意したV字形滑走路案に反対する決議を初めて可決する予定です。これは地元の意向を大事にするということで進めてきた日米両政府にとっては、大きな打撃になります。

今までの世論調査で80%もの県内移設反対結果が明らかであったにもかかわらず、日本政府が無視してきたのは、名護市長と沖縄県知事、そして、それぞれの議会の支持があったからということでした。それでも日米政府が合意した沿岸案と県知事や名護市長の沖合い案の対立が埋まらないままに来ていた中で反対決議となるだけに現在進められているキャンプシュワブ内での違法工事にも大きな影響を与えるものにならなければならないのです。

実は、沖縄防衛局が兵舎や管理棟などの建設に向け、造成工事に入っていたことが地元紙に報道されたのが6月18日でした。7月中には作業を終える予定ということで、既に県や名護市が求める沖合移動で、政府が実務者レベルの本格的な検討作業に入ったことも明らかになっています。

会合には内閣官房や内閣府、防衛省、環境省、県の担当課長らが出席し、アセスメントに関する法律や条例の解釈など、基本的な問

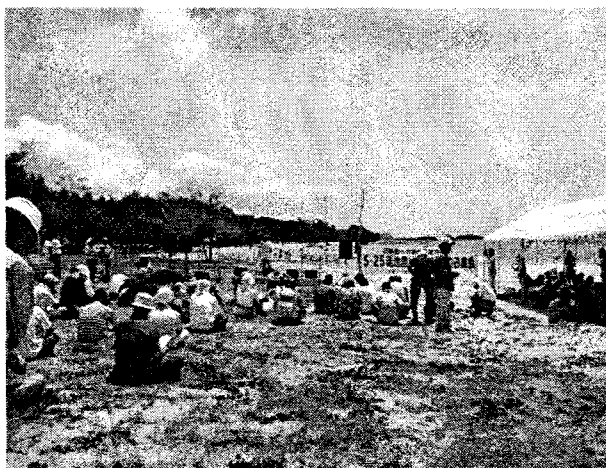
題点で意見を交わしたということです。

### 東村高江住民の闘いは続く

一方、北部訓練場のヘリパッド移設工事に反対する東村高江区の住民らによる「座り込み一周年報告会」が6月29日、村農民研修施設で開かれました。村内外から約350人が集まり、座り込みを始めて7月2日で1年となるのを前に阻止行動の継続と支援を誓いあったということです。

地元紙の報道では、「わずか160人の集落をヘリパッドが取り囲むと、高江が消えてしまう。私たちが今必要としているのは人。皆さんと力を合わせたい」と安次嶺現達共同代表が呼び掛け、座り込み参加者らによるリレートークでは「高江の心を伝えきれずに沖縄の心は伝えきれない」「子どもたちにヘリが飛び交う森を残したくない」などの意見が相次いだということです。そして会では、座り込み参加者が延べ人数で7千人を超えたこと、ヘリパッドの建設即時中止を求める署名が約2万4千人分集まったことも報告されていました。

しかし、そうした平和に生きたいと願う多くの御万人の願いをあざ笑うかのような計画が7月に入って工事が一部で再開される中で明らかになりました。



辺野古座り込み1500日の集い  
(08/5/25、ヘリ基地いらない二見以北10区の会より)

米海兵隊のホームページによると、ドイツ、イスラエル、オランダの各軍隊と自衛隊の連絡官が5月21日に北部訓練場を視察したということです。将来的に北部訓練場でジャングル訓練を行う可能性を視察するためだったということで、ドイツ陸軍の連絡官は「とても素晴らしい視察だった。ここへ来て、訓練できるよう楽しみにしている」と印象を語ったそうです。

また、ホームページの中では「他国軍の訓練場使用についてまず第一に日本政府からの了承が必要だ」と指摘しているということですが、これまでの日本政府の対米従属路線を変えない限り断ることは考えられません。阻止行動の応援に駆け付けた平和運動センターの山城博治事務局長は「多数の国が北部訓練場を視察していたこと

で、負担軽減が真っ赤なうそだと証明された。機能強化のためにこの小さな集落にヘリパッドを移設することは許さない」と語気を強めたと地元紙で報道されていました。

### 辺野古応援コンサートの報告

最後に東京での大きなイベントの報告です。沖縄戦慰霊の日を前にして、22日の午後から上野水上音楽堂でピースミュージックフェスタ・辺野古が開かれました。朝からの降り続く雨の中、約千人の観客、スタッフ、出演者が一日沖縄、辺野古、高江に思いを寄せながらのコンサートでした。

沖縄の若いミュージシャン達が中心になって2年前から辺野古の浜で開いてきた文字通りの平和を作るコンサート、しかも当面の最大の焦点となっている辺野古への新基地建設反対、東村高江のヘリパッド建設

反対を前面に打ち出したものです。

コンサートの内容は、3年前に私たちが主催した命どう宝平和世コンサートで、最高新記録の1300人結集を果たした波さ知らず、ソウルフラワーモノノケサミット（今回は、ユニオン）、寿バンドバージョンに加えて沖縄からの若いミュージシャンたち4グループ



ピースコンサートちらし

に照屋政雄さんとドナル・ラニー&梅津和時、近藤ヒロミという凄い出演者。従って、最初から最後まで観客にとっては、贅沢三昧、感動と感激のコンサートとなりました。

更に、演奏の切り替え時には、KEN子ちゃんの軽妙洒落な才能溢れるトークに加えて高江から2家族、子供連れの女性のメッセージと辺野古の富田晋君のミュージシャンに負けない力強いアピールがあり、すばらしいコンサートになりました。

さらに嬉しかったのが、終わってからの後片付けと搬出の時でした。降り続ける雨の中でボランティアスタッフも含めて1時間以上も片付け作業が続いたのです。特に感心したのは、駐車場の担当者や連絡、片付け係の女性達。ビニールのカッパで濡れながら車の配置換えや鍵のやり取り、荷物の搬出、ごみの片付けなど文字通りの献身的な活躍ぶりに頭が下がりました。因みに当日のボランティアスタッフは、総勢160人だったそうです。

このように運動の継承と発展が若者達自身のネットワークによって行われてきたことに、感動、感謝、感激して、私自身は運転手としての荷物運びの最後の仕事で会場を後にしたのが、9時過ぎのことでした。

(おあた だけじ)

性が8人、女性18人が参加したのです。しかも参加者のうちで高山登山経験者は、私の友人一人だけというメンバー構成で出発は、6日の日曜日。私の運転するマイクロバスに16人ほどが乗って一路富士山へ。表富士宮口の5合目に到着したのが、午前11時ごろ。既にその標高は、2400メートルもあり、昼食休憩と体慣らしで時間をつぶしてから登頂開始が午後1時ごろでした。

その日の予定は、3010メートルにある元祖7合目の山小屋で宿泊ということで、比較的ゆっくり登り、約5時間ばかりで辿り着き、すぐ夕食。そして、風呂なしで午後8時消灯ということなので、持



8年と1549日目(08/7/15、辺野古浜通信より)

参した泡盛と値段の高いビール、日本酒を分け合って飲み、翌日のご来光を楽しみに寢床のベッドに着たきりすずめ状態で入りました。

### 富士山の7月7日

運命の日の7日は、午前4時前からの激しい雨の音で、目が覚めました。ご来光の希望が絶たれて、また一眠り。しかし、頭痛と吐き気の高山病の軽い症状を感じながらも、6時ごろ朝食を済ました頃には雲が切れてきたということで、登山続行と決定。その準備の過程で驚かされたことは、朝の7時ごろから始まった自衛隊の実弾演習の激しさでした。最初は、雲の下で雷雲がなっているのかと思っていたのですが、山小屋のご主人曰く「また税金の無駄遣いが始まった」とのこと。

その砲弾演習は、なんと私たちが頂上を極めて下山し終える直前の午後4時近くまで続いたのです。その音が聞こえる度に、悔しさと怒りでわが身を励まし

て登り、下ったかのような感じさえするほどでした。その後、3250メートルの8合目まで来たときに、雨も激しく降りだしたことから、その神人がここで祈りをすると決断し、お供え物を並べ、鈴を鳴らし、ビデオを回して祈りが始まりました。

それはちょうど北海道の洞爺湖でG8サミットが始まった時刻だったのかと思っていますが、参加者一同で祝詞を唱えた後で、一人づつ順番で指定された祝詞を唱えることになり、私が読まれたのが「カムアシキネ アマタナムカイ アマアメ オホトノチ オホトノベ アマクニムカヒトフノチ 空の神様 空を守っている。羽衣を着ている空をきれいにしなさい。地球環境の大切さを知らなさい」という文章だったのです。

その言葉は、世界からアイヌモシリ(北海道)に集まってきている先住民族、とりわけアイヌ民族の言葉に似ているという印象を受けました。そして、環境サミットとって洞爺湖に集っている首脳たちのまやか

しと東富士演習場という広大な自然を破壊している自衛隊の実弾演習に対して平和の祝詞を発したという感動を覚えたのです。その祈りを終えてからは、ほとんどの参加者は下山を始めたのですが、既に頂上を目指して登って行った人が二人いたことが分かり、私と男性3人もとりあえず頂上を目指すことにしました。

そして、結局私ともう一人の友人だけが最高峰の剣が峰にたどり着くことができたのですが、頂上に近くに連れて、冒頭に書いたように風雨が激しく、残雪もあり、休憩する山小屋や神社もしまっているという

過酷な条件が加わり、ほとんど修行僧のような感覚で降りてきたのです。

### 下山の厳しさで自然の偉大さを感じる

その下山の厳しさがまた想像を超えるものでした。火山礫や大きな岩のギャップを踏みしめるたびに、ひざの関節が悲鳴を上げるといっても過言ではないほど。登るときよりも立ち止まる回数を増やし、呼吸を整えないと足がもたない感じでした。高山経験者の友人が頂上まで登らずに一足早く降りて行った先見の明を文字通り痛感したのでした。

更に初体験の登頂と下山の途中で感じたことは、なんとと言っても自然の偉大さと人間の小ささでした。とりわけ、広大な面積を占有して緑の大地で自衛隊が続いていた実弾演習には、その砲撃の音が聞こえる度に、繰り返される戦争の悲劇を知っているがそこに拘泥している人間の愚かさや戦争行為によって経済と政治利権の拡大を狙う軍産複合体への怒りで体のエネルギーが奪われた感じでした。

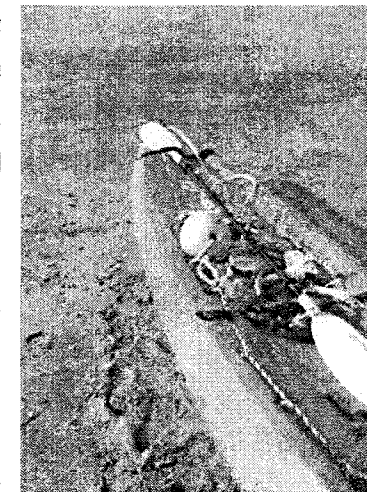
とはいっても無事に降りてこられたのは、途中で出会う多様な人々との励まし合いと挨拶だった気がします。人間は本来優しいものだと思わせてくれた出会いがたくさんありました。

### 無策の洞爺湖サミット首脳

その洞爺湖サミットは、当初予定されていた通りに具体的な成果を世界に約束しないまま閉幕しました。食糧、原油、資源などの高騰によって世界に貧困と飢餓が広がる一方で、金満資本と国家がより莫大な利益を求めて国境を越えて巨大資金を運用するという悪循環を断ち切る意思すら示せなかったということです。

それどころか、各地で事前に開催されたサミット関連行事はもとより、本番の北海道洞爺湖周辺、首都圏の過剰警備は、日本の警察、警備までアメリカ式に組み込まれたという現実を見る思いがしました。つまり、日米軍事再編という米軍の下に自衛隊を組み込む一体化と同時進行で、海外からのテロ防止という名目の下に警察警備まで変えられたということです。

因みに警視庁のバトカーや機動隊の乱闘服のデザイン文字に「POLICE」というアルファベットが入るようになったのは何時ごろからだったのでしょうか。今回の空港での韓国からの労働者を監禁した上で、入国を拒否して強制送還した行為は、かつての韓国やフィ



辺野古のカヌー(08/7/10、辺野古浜通信より)

リピンの軍事政権時代のことであり、2001年以降の対テロ戦争国家である米国方式でしかないのです。そして、ピースパレードの一連の表現行為だったサウンドデモについても、先導車の窓ガラスを壊して運転手を逮捕するなどの手口は、民主警察の法的規制を壊す暴力的な破壊行為にほかなりません。

まさにサミット首脳の無策振りがもたらす今後の世界経済、政治

の破綻に対する回答を予告しているような感じです。それは、人権、生存権、環境問題などへの抵抗を「反テロ」の枠に入れ込んで、暴力的に圧殺するというむき出しの暴力的弾圧を辞さないという宣言のようなものです。

### 沖縄議会の一大変化

そのサミットを前にした沖縄では、大きな変化が起こりました。それは、沖縄県議選で県政与党の自民党と公明党が過半数を割り込み、野党勢力が26議席と

過半数を大幅に上回る結果になったことです。こうした与野党逆転は、1992年の復帰20周年の時以来のことです。しかし、16年前は、大田知事当選から2年後のことで、まだ公明党が革新勢力一翼を担っていたときでした。その公明党が1998年に与党へと鞍替えしてからちょうど10年という中での与野党逆転の意味はより大きなものがあったのです。

県議会(高嶺善伸議長)の野党会派は、米軍普天間飛行場の名護市キャンプ・シュワブ沿岸部への移設反対の決議案を開会中の六月定例会に提出し、日米両政府が合意したV字形滑走路案に反対する決議を初めて可決する予定です。これは地元の意向を大事にするということで進めてきた日米両政府にとっては、大きな打撃になります。

今までの世論調査で80%もの県内移設反対結果が明らかであったにもかかわらず、日本政府が無視してきたのは、名護市長と沖縄県知事、そして、それぞれの議会の支持があったからということでした。それでも日米政府が合意した沿岸案と県知事や名護市長の沖合い案の対立が埋まらないままに来ていた中で反対決議となるだけに現在進められているキャンプシュワブ内での違法工事にも大きな影響を与えるものにしななければならないのです。

実は、沖縄防衛局が兵舎や管理棟などの建設に向け、造成工事に入っていたことが地元紙に報道されたのが6月18日でした。7月中には作業を終える予定ということで、既に県や名護市が求める沖合移動で、政府が実務者レベルの本格的な検討作業に入ったことも明らかになっています。

会合には内閣官房や内閣府、防衛省、環境省、県の担当課長らが出席し、アセスメントに関する法律や条例の解釈など、基本的な問

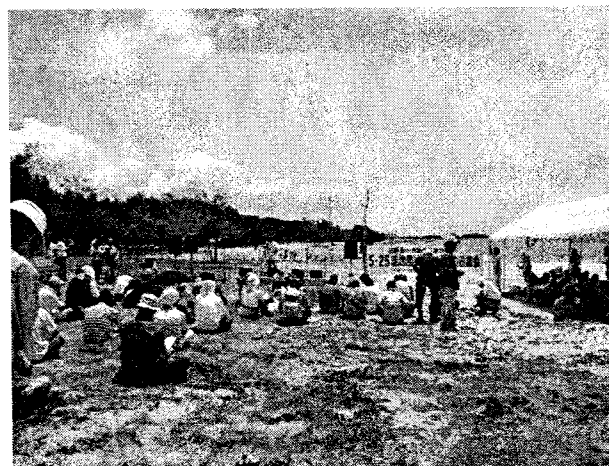
題点で意見を交わしたということです。

### 東村高江住民の闘いは続く

一方、北部訓練場のヘリパッド移設工事に反対する東村高江区の住民らによる「座り込み一周年報告会」が6月29日、村農民研修施設で開かれました。村内外から約350人が集まり、座り込みを始めて7月2日で1年となるのを前に阻止行動の継続と支援を誓いあったということです。

地元紙の報道では、「わずか160人の集落をヘリパッドが取り囲むと、高江が消えてしまう。私たちが今必要としているのは人。皆さんと力を合わせたい」と安次嶺現達共同代表が呼び掛け、座り込み参加者らによるリレートークでは「高江の心を伝えきれずに沖縄の心は伝えきれない」「子どもたちにヘリが飛び交う森を残したくない」などの意見が相次いだということです。そして会では、座り込み参加者が延べ人数で7千人を超えたこと、ヘリパッドの建設即時中止を求める署名が約2万4千人分集まったことも報告されていました。

しかし、そうした平和に生きたいと願う多くの御万人の願いをあざ笑うかのような計画が7月に入って工事が一部で再開される中で明らかになりました。



辺野古座り込み 1500日の集い  
(08/5/25、ヘリ基地いらない二見以北10区の会より)

米海兵隊のホームページによると、ドイツ、イスラエル、オランダの各軍隊と自衛隊の連絡官が5月21日に北部訓練場を視察したということです。将来的に北部訓練場でジャングル訓練を行う可能性を視察するためだったということで、ドイツ陸軍の連絡官は「とても素晴らしい視察だった。ここへ来て、訓練できるよう楽しみにしている」と印象を語ったそうです。

また、ホームページの中では「他国軍の訓練場使用についてまず第一に日本政府からの了承が必要だ」と指摘しているということですが、これまでの日本政府の対米従属路線を変えない限り断ることは考えられません。阻止行動の応援に駆け付けた平和運動センターの山城博治事務局長は「多数の国が北部訓練場を視察していたこと

で、負担軽減が真つ赤なうそだと証明された。機能強化のためにこの小さな集落にヘリパッドを移設することは許さない」と語気を強めた地元紙で報道されていました。

### 辺野古応援コンサートの報告

最後に東京での大きなイベントの報告です。沖縄戦慰霊の日を前にして、22日の午後から上野水上音楽堂でピースミュージックフェスタ・辺野古が開かれました。朝からの降り続く雨の中、約千人の観客、スタッフ、出演者が一日沖縄、辺野古、高江に思いを寄せながらのコンサートでした。

沖縄の若いミュージシャン達を中心になって2年前から辺野古の浜で開いてきた文字通りの平和を作るコンサート、しかも当面の最大の焦点となっている辺野古への新基地建設反対、東村高江のヘリパッド建設

反対を前面に打ち出したものです。

コンサートの内容は、3年前に私たちが主催した命どう宝平和世コンサートで、最高新記録の1300人集集を果たした洪さ知らず、ソウルフラワーモノノケサミット(今回は、ユニオン)、寿バンドバージョンに加えて沖縄からの若いミュージシャンたち4グループ

に照屋政雄さんとドナルド・ラニー&梅津和時、近藤ヒロミという凄い出演者。従って、最初から最後まで観客にとっては、贅沢三昧、感動と感激のコンサートとなりました。

更に、演奏の切り替え時には、KEN子ちゃんの軽妙洒脱な才能溢れるトークに加えて高江から2家族、子供連れの女性のメッセージと辺野古の富田晋君のミュージシャンに負けない力強いアピールがあり、すばらしいコンサートになりました。



6.22 SUN 上野公園水上音楽堂  
OPEN 13:00 START 14:00 END 20:00 観客無料 2014年6月22日(日)  
SOLAR FLOWER UNION 命どう宝平和世コンサート 寿 Band  
照屋政雄 照屋政雄 照屋政雄 照屋政雄 照屋政雄  
ドナルド・ラニー 梅津和時 近藤ヒロミ  
Shooting To The Sky 80%OFF FREE SHOPS エキストラプレゼント 10.A.C.

ピースコンサートちらし

さらに嬉しかったのが、終わってからの後片付けと搬出の時でした。降り続ける雨の中でボランティアスタッフも含めて1時間以上も片付け作業が続いたのです。特に感心したのは、駐車場の担当者や連絡、片付け係の女性達。ビニールのカッパで濡れながら車の配置換えや鍵のやり取り、荷物の搬出、ごみの片付けなど文字通りの献身的な活躍ぶりに頭が下がりました。因みに当日のボランティアスタッフは、総勢160人だったそうです。

このように運動の継承と発展が若者達自身のネットワークによって行われてきたことに、感動、感謝、感激して、私自身は運転手としての荷物運びの最後の仕事で会場を後にしたのが、9時過ぎのことでした。

(おあた だけじ)

# オキナワの基地の二ヶ月

08.05.15 ~ 08.7.18



飛行再開したF15戦闘機(嘉手納, 08.01.15、リムピース提供)

## ● 5月15日

政府は14日までに、在日米軍再編への協力に応じて関係自治体に支払う08年度再編交付金の一次内定額を固め、関係自治体に通知することを決めた。普天間飛行場移設先の名護市に9億7000万円、宜野座村に1億6100万円をそれぞれ内定。環境影響評価(アセスメント)調査の開始に伴い、移設完了時に支払われる上限額の25%を支給し、二次内定分で追加される見込み。名護、宜野座への再編交付金をめぐっては、政府が3月に「理解と協力が得られた」として凍結を解除。まだ執行していない07年度分約4億6000万円(名護市約3億9700万円、宜野座村約6700万円)も配分される予定。一方、陸自のキャンプ・ハンセン共同使用では、金武町に8500万円、恩納村に3300万円、宜野座村に2000万円をそれぞれ内定。3月に共同使用訓練が始まったことで「再編の完了」と見なされ、上限額が支給される予定。そのほか、那覇港湾施設(那覇軍港)の移設受け入れを表明している浦添市に2600万円を内定。最終的には前年度と同額の3700万円となる見込みだ。

## ● 5月16日

米軍北部訓練場の一部返還に伴うヘリコプター着陸帯(ヘリパッド)の移設が計画されている東村高江で、国の特別天然記念物ノグチゲラが営巣しているとみられる様子が確認された。

## ● 5月20日

米軍基地で働く日本人従業員へのパワーハラスメントが相次いでいるとして、当事者や関係者は20日、「基地労働者パワハラ被害者及び支援者の会」を結成した。同日までに従業員や支援者70人が賛同している。設立の準備段階で、各職場で実施したアンケートでは、回収した63人のうち26人が「パワハラ被害を経験した」と回答。うち11人が「自殺も考えた」とするなど深刻な実態も浮き彫りになった。

04年の沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落をめぐり、那覇市の男性(42)が国を相手に、日米両政府の協議内容を記した文書の公開を求めた訴訟の控訴審に絡み、福岡高裁(西理裁判長)は20日までに、国側に文書の不開示部分を裁判所に提示するよう命じた。

## ● 5月23日

米空軍が検討している次期攻撃戦闘機F35Aの米軍嘉手納基地への配備について、早ければ13年までに完了したい意向を示していることが23日までに分かった。ハワイの地元紙ホノルルアドバタイザーが22日、米太平洋空軍司令官のキャロル・チャンドラー大将の話として報じた。同紙によると、チャンドラー大将は、嘉手納基地所属のF15戦闘機二個中隊(48機)に代わって、F35の二個飛行中隊を配備したい考えを示したという。

## ● 5月25日

在沖米海兵隊は、普天間飛行場に配備されている空中給油機KC130J用にシミュレーター(模擬飛行装置)を導入し、早ければ8月から運用する計画があることを、25日までに明らかにした。同飛行場所所属の第152海兵空中給油中隊が運用する予定。しかし、同中隊はこれまでシミュレーター訓練を米本国で行い、「導入でパイロットが米本国に帰還する必要がなくなる」とも説明しており、飛行時間削減につながるかは不明だ。伊波洋一宜野湾市長は「シミュレーター導入は、市が訴えてきた危険性除去に軍が敏感になっているととらえることもできる。飛行訓練減少を期待し、データを分析したい。ただ、飛行場での訓練はKC130だけでなく、危険性除去の大きな解決にはならない。」と話している。

名護市辺野古沖への米軍普天間飛行場代替施設建設に反対する住民らが座り込みを続けて27日で1500日目になるのを前に25日、「5.25現地座り込み1500日集会」(主催・ヘリ基地反対協議会)が開かれた。県内外から約300人(主催者発表)が参加。「闘争を貫徹しよう」と運動継続を誓った。

## ● 5月27日

金武町伊芸区の住宅地上空で今月20日から22日にかけて、米軍ヘリが深夜まで飛行した問題で、儀武剛町長と池原政文区長は27日午前、沖縄防衛局に真部朗局長を訪ね、抗議するとともに、住宅地上空での米軍ヘリ訓練の廃止を要求した。儀武町長は、町職員が撮影した写真を調べた結果などから、米空軍のヘリが伊芸区全体を周回したことを明らかにし、「日米地位協定で施設間移動は認められているが、空軍の演習はおかしいのではないかと指摘。5.15メモなど過去の日米合意の記録も含めて調査し、正式文書で回答するよう要求した。米軍側から町への通報に「ヘリ訓練」と触れられてなかったことを挙げ、通報体制も問いただすよう求めた。池原区長は「戦場さながらの訓練で住民は悲鳴を上げている。日本政府が毅然と対応しなければ、米軍の訓練はますます拡大していく」と危機感を表明した。米軍は今月20日から3日連続で午後11時ごろまで、民家から500メートルも離れていないキャンプ・ハンセン「レンジ4」都市型訓練施設内のヘリパッドで離発着を繰り返した。2~4機がごう音を響かせ、無灯火のヘリが高速で闇夜を横切った。公民館から40~50メートルの低空飛行で集落上空を何度も旋回した。住民への聞き取りで区がまとめた飛行ルートは、集落をすっぽりと囲んでいた。22日夜には、爆破訓練とみられる爆発音も重なり、町測定で85.5デシベルを記録した。町は、撮影した写真から米空軍のHH60と呼ばれる救難ヘリとほぼ断定。所属先は不明だが、空軍機が飛来し、伊芸上空で訓練していたことになる。

## ● 6月5日

嘉手納基地で5日午前10時25分ごろ、同基地所属のF15戦闘機一機が緊急着陸した。機体のフックを滑走路上のワイヤに引っ掛けて停止したため、緊急性が高かったとみられる。

金武町並里区(與那城直也区長)は5日の区議会で、日米が返還合意していた米軍ギンバル訓練場内の区有地(34ヘクタール)を、跡地利用を進める町に売却する案を賛成多数で可決した。返還は、同区に隣接するブルービーチ訓練場へのヘリコプター着陸帯(ヘリパッド)移設が条件になっている。

十年越しで条件付き返還に反発していた同区が「現実的対応」にかじを切った。一方、反対する住民の間では署名活動の動きも出ている。町は、米軍基地所在市町村活性化特別事業（島田懇談会事業）の「ふるさとづくり整備事業」で、ギンバル訓練場跡地に医療施設建設の計画を進める。内閣府は昨年末、用地買収費用として15億6900万円を内示。本年度内の着工を目指す町は、区有地売却に関する同区の合意を得て予算要求をしたい考えで、区に働き掛けてきた。区に入るギンバル訓練場の軍用地料は年間約5200万円。公民館の維持管理費や区内各団体への補助金などに充てられている。返還後は、区有地の売却費で国債を購入し、その利息でこれまでの住民サービスを継続する考えという。

●6月6日

沖縄防衛局の真部朗局長は6日、中部の十市町村でつくる中部市町村会（会長・知念恒男うるま市長）の要請の場で、日米が合意した米軍普天間飛行場での場周経路が守られていないとの伊波洋一宜野湾市長の訴えに対し、「市の声を有効なデータとして客観的に米側にぶつけられるような方策を考えたい」と答え、同局自身が現状調査に取り組む姿勢を示した。外務省沖縄事務所の倉光秀彰副所長は「指摘を真摯に受け止め、防衛省と、米側に『約束をきちんと実行してほしい』と申し入れていきたい」と述べた。

●6月9日

沖縄国際大の敷地内に米軍のヘリコプターが墜落した事故をめぐる情報公開訴訟で、福岡高裁（西理裁判長）は9日までに、不開示部分を裁判所に提示するよう命じた同高裁決定を不服として国が申し立てた抗告を許可する決定をした。不開示部分の裁判所への提示の可否は、最高裁に審理が持ち込まれ、判断されることになった。

●6月17日

米軍機の民間地への墜落事故を防ぐため、日米政府で合意された米軍普天間飛行場の場周経路について、沖縄防衛局が宜野湾市内で米軍機の飛行ルートを目視調査していることが17日までに分かった。同局が同飛行場の場周経路の調査を実施するのは初めてとみられる。

米軍普天間飛行場の名護市キャンプ・シュワブ沿岸部への移設をめくり、県や名護市が求めている代替施設案（V字案）の沖合移動で、政府が実務者レベルの本格的な検討作業に入ったことが17日までに分かった。政府内には沖合への移動が日米合意の修正になり、米国側が反発していることから、慎重論が多い。ただ、難航している同飛行場の移設問題を前進させるためには県側への配慮が必要との政治的な判断から、異例の前倒しで実務協議に踏み切った形だ。

●6月18日

普天間飛行場の移設に伴い、沖縄防衛局は名護市キャンプ・シュワブ内の下士官宿舎など新設五棟の工事に2日から着手していたことが18日までに分かった。兵舎や管理棟などの建設に向け、造成工事に入っている。工事は2日に着工、磁気探査など準備作業を終え、9日から造成作業に入った。整地を終えた後の建物の建設は9月ごろとなる見通し。5棟は下士官宿舎（約9102平方メートル）のほか、倉庫（約1719平方メートル）や管理棟（約3169平方メートル）、通信機器整備工場（約2770平方メートル）、舟艇整備工場（約3147平方メートル）。建設場所は飛行場建設予定地の西側で、工期は09年9月末となっている。防衛施設庁（現防衛省）が06年、基地建設計画（マスタープラン）の概要を地元で説明した際、キャンプ・シュワブには普天間飛行場代替施設の移設に伴い、約3000人の兵員が移駐することを明らかにしており、約6000人規模の海兵隊基地になるとみられている。

●6月19日

午後3時ごろ、米空軍の超大型長距離輸送機C5ギャラクシー1機が普天間飛行場に飛来し、CH53D大型輸送ヘリ2機が積み込まれた。17日には別のギャラクシー1機が飛来し、CH53D2機を輸送。同型ヘリ6機もローター（回転翼）が外された状態で駐機している。

●6月20日

午後3時半ごろ、5月から海外演習に派遣されていた普天間飛行場所属のヘリ15機が編隊を組んで帰還した。宜野湾市の市街地上空を10機以上の編隊が飛行するのは異例。市役所には「ここは戦場か」「何が起きているんだ」と苦情が相次いだ。慰霊の日直前、しかも沖縄防衛局による米軍機の飛行ルート調査が終了した直後の帰還に、同市は「再び騒音被害が激化する。国の再調査が必要だ」と事態を重く見ている。この日、編隊で飛行したのは沖縄国際大学で墜落したCH53D大型輸送ヘリとは型違いのE型4機とCH46中型輸送ヘリ6機など。編隊はすぐに飛行場へ降りず、市役所の真上など市内を旋回して着陸。市街地への墜落を防ぐため日米で合意された飛行ルートの場周経路をはみ出し、ごう音が数分間続いた。午前には別のヘリ6機が帰還し、FA18戦闘攻撃機など外来機の飛来も確認された。

●6月23日

普天間飛行場の移設に伴い沖縄防衛局は、名護市キャンプ・シュワブ内の兵舎や舟艇整備工場の建設に向けた造成工事を本格化させている。23日、大型建設機材を使った大規模な造成工事の様子が確認された。同基地内の埋蔵文化財について、名護市教育委員会は、市議会定例会に計上している調査費補正予算が可決された後、7月から4カ月間の予定で本調査を実施する。これまでの試掘調査などで、海側から水田跡が確認されたため、海側を調査する予定だ。

●6月24日

午前、米空軍の超大型長距離輸送機C5ギャラクシー1機が普天間飛行場に飛来し、04年8月に沖縄国際大学へ墜落したヘリと同型のCH53D大型輸送ヘリ2機を積み込んだ。ギャラクシーが同飛行場に飛来するのは今月に入って3度目。

●6月26日

米軍普天間飛行場の周辺住民392人が、ヘリコプターなどの騒音に伴う健康・生活被害を訴え、国に夜間と早朝の飛行の差し止めと、計4億5540万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、那覇地裁沖縄支部（河合芳光裁判長）は26日、すべての原告が居住するうるささ指数（W値）75以上の地域住民に生活・睡眠妨害に伴う精神的被害を認め、国に総額1億4670万円の支払いを命じた。河合裁判長は、訴訟係属中の04年8月に起きた沖縄国際大学へのヘリ墜落など、施政権返還後に同飛行場所属の軍用機の事故が77件発生していると指摘。住民の墜落に対する不安・恐怖感を精神的な被害として認めた。国側が主張した「危険への接近」に伴う免責は、本島中部で騒音の影響を受けない地域に限られていることや、沖縄の人の地元回帰意識が強いことを踏まえた上で、「少なくとも返還が合意された96年以降はやむをえない」と判断。国側の主張を全面的に退けた。住民側が最大の争点に位置付けた低周波音による被害は、難聴や耳鳴りといった健康被害との因果関係を否定。騒音発生の責任を明確にするため、住民側が求めた国による継続的な騒音測定についても「国は被害防止の措置をとる法的立場にはない」などとして、認めなかった。将来分の賠償と飛行の差し止め請求についても退けた。

町村信孝官房長官は26日の普天間騒音訴訟判決を受け、同飛行場の危険性除去に向けた米側との協議を再開する考えを初めて示した。同長官は4月の普天間飛行場の移設協議会で、政府が危険性除去策の取り組みを再検討する方針を示していたが、「移設するまでの間、米側と交渉するなど努力したい」とさらに踏み込んだ発言で、県側の要望に応じる姿勢を示した。同日午後の会見で述べた。

● 6月29日

北部訓練場の一部返還に伴うヘリコプター着陸帯（ヘリパッド）移設工事に反対する東村高江区の住民らによる「座り込み一周年報告会」（主催・ヘリパッドいらぬ住民の会）が29日、村農民研修施設で開かれた。村内外から約350人（主催者発表）が集まり、阻止行動の継続と支援を誓った。座り込みを始めて7月2日で一年となるのを前に行われた。沖縄防衛局は、3～6月は希少鳥類の繁殖期に当たるとし、工事を中断しており、7月に再開する見通し。

● 7月1日

自衛隊、ドイツ、イスラエル、オランダの4軍幹部が、将来の訓練を視野に入れて米軍北部訓練場（国頭村、東村）を視察していたことが、1日までに分かった。在沖米海兵隊の機関紙「オキナワマリーナ」が報じた。日米以外の外国軍が在沖米軍基地使用を検討していることが明らかになったのは初めて。自衛隊の視察について、防衛省は事実関係を確認中としている。同紙によると、視察は今年5月21日。米バージニア州クワンティコ基地の海兵隊戦闘開発指揮（MCCDC）に出向する4軍の連絡担当将校が参加し、海兵隊のジャングル戦闘訓練を見学した。ジャングル戦闘訓練技術のカリキュラムや、性別に関係なくすべての海兵隊員が訓練に参加していることなどが説明されたという。

米軍北部訓練場の一部返還に伴う東村高江区へのヘリコプター着陸帯（ヘリパッド）移設問題で、工事中断期限の切れた1日午前、沖縄防衛局員や業者、作業車が現場を訪れた。警戒中の反対派住民や支援者数人が立ちふさがり、局員らと激しく口論、一時騒然とした。

中城湾港泡瀬沖合埋め立て事業のため、沖縄市と米軍が締結している米軍泡瀬通信施設の保安水域共同使用協定について、沖縄市長が今後の協定更新について「新たな基地の提供につながるため署名できない」と事業者の国と県に4月末に通知していたことが1日、分かった。これを受け、県は市長に代わって県知事を署名者とする文書を沖縄防衛局長あてに送っているが、米軍からの回答はないという。

● 7月2日

午前9時半ごろ、普天間飛行場に米空軍の超大型長距離輸送機C5ギャラクシー1機が飛来した。04年8月に沖縄国際大学に墜落したヘリと同型のCH53D大型輸送ヘリ2機を積み込み、同日午後3時ごろ飛び立った。ギャラクシーは6月に同飛行場に4回飛来し、CH53D10機のうち、8機を輸送していた。今回の輸送で、同飛行場に配備されるCH53Dはゼロとなった。

● 7月4日

在沖米海兵隊がキャンプ・ハンセン内の都市型戦闘訓練施設（コンバットタウン）での訓練補完を目的に、5日から訓練用コンテナ73個を搬入することが4日、分かった。沖縄防衛局が明らかにした。移送作業は23日まで続く見通し。在日米軍基地で同様の訓練用機材が搬入されるのは初めてだ。搬入目的について米側は「コンテナ同士を組み合わせることで街並みに模した建物を造ることができ、より機動的かつ効果的な訓練環境をつくり出すことが可能」と説明。現在の空き地部分を効率的に最大限活用する意向という。政府は「米国予算で実施されるもので、このような訓練はこれまでも計画され実施されてきた。日米安保条約の目的達成のため必要な訓練の一環」との認識を示している。

● 7月8日

普天間飛行場を離着陸するヘリコプターなどの騒音によって健康被害を受けたとして、周辺住民392人が国に夜間・早朝の飛行差し止めと損害賠償を求めた普天間爆音訴訟で、原告は8日、飛行差し止めなどを棄却した一審判決を不服として福岡高裁那覇支部に控訴した。

● 7月9日

普天間飛行場の周辺住民が、夜間・早朝の飛行の差し止めと損害賠償などを国に求めている訴訟で、被告の国側は9日、総額1億4600万円の支払いを命じた一審・那覇地裁沖縄支部判決を不服として、福岡高裁那覇支部に控訴した。

普天間飛行場の米軍機の飛行の影響で、地上デジタル放送に受信障害が発生していると宜野湾市に苦情が相次いでいる問題で、沖縄総合通信事務所が市内の障害状況調査を始めていたことが9日、分かった。米軍機と受信障害の因果関係の有無を明らかにするため、継続的に調査を行う。苦情は同市内十地域と浦添市、西原町、中城村から合わせて計26件。「ヘリが飛ぶと地デジ放送が途切れる」など、アンテナ付近の空中で物体が動くとき信号が遮られる「フラッター現象」が起きているといった苦情が寄せられたため、同市が国へ対策を求めている。

● 7月10日

仲井真弘多県知事が公約に掲げ、政府に求めている普天間飛行場の危険性除去について、防衛省と県が共同で技術的な対応策を検討する研究チームを設置する方向で調整を進めていることが10日、分かった。県、政府双方の事務方による協議が始まれば、問題解決に向けた取り組みが本格化することになる。

● 7月11日

仲井真弘多知事は11日の定例会見で、普天間飛行場のキャンプ・シュワブ沿岸部への移設で政府に求めている代替施設の沖合移動について、「大浦湾に突き出しているものを引っ込めてはどうか。名護市の意見もそれに近い。引っ込めて前に出すという感じだ」と述べ、南西方向にずらした上であらためて沖合に移動するよう要望する考えを示した。名護市の島袋吉和市長は沖合・南西方向への移動を求めると考えを示していたが、知事が具体的に言及するのは初めてだ。

● 7月18日

県議会（高嶺善伸議長）の6月定例会は18日の最終本会議で、野党六会派が提出した普天間飛行場の移設先となる名護市辺野古沿岸域への新基地建設に反対する決議・意見書を野党の賛成多数で可決した。日米両政府の合意した現行案（V字形）に県議会が反対決議をしたのは初めて。決議・意見書は日米両政府や仲井真弘多知事に対し、新基地建設の断念を求める内容。

普天間飛行場の移設に関する政府と地元の協議会の第8回会合が18日夕、首相官邸で開かれた。石破茂防衛相は危険性除去と建設計画・環境影響評価（アセスメント）について、それぞれ実務者で構成するワーキングチームを設置する方針を示し、県や名護市など地元と合意した。石破防衛相は「密接に意見交換しながら、検討を進めることが必要だ」と述べた。町村信孝官房長官は両ワーキングチームを今月中に発足させる意向を示した。

日本自然保護協会や世界自然保護基金（WWF）ジャパンなどは18日、環境省で会見し、名護市大浦湾で昨年9月に見つかった大規模なアオサゴ群落などについての調査結果を発表した。同湾に生息する生物の多様性について「県内で極めて特異的な存在」と指摘し、同湾周辺で計画されている普天間飛行場の代替施設建設に対しては「自然環境や生物多様性に大きな悪影響を及ぼす」と懸念を示した。

誰がためのG8

北半球を支えるための南半球？

先進八カ国が雁首揃えて話し合う内容は、さて如何？  
ほんとうにこの地球全体のことを真剣に考えているの？

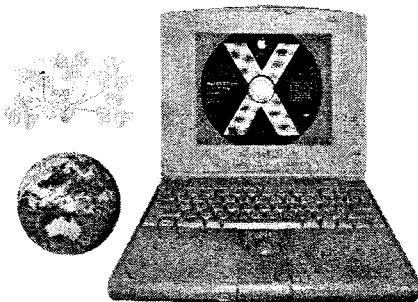


編集室から

編集後記

◎一生活者として日々、食品、生活用品を買い出しに行く度、値上げと品薄に「世も未だ」と独りごちます。こんな時に軍事實費なんて、ひと昔前の本ですが、「この金で何が買えるか」と大きな声で叫びたい。

◎6月末、近くの沢でホタルの点滅を確認した。同じ場所で、サワグルミの梢に産みつけられたモリアオガエルの卵囊がまるで醗酵したしたパンのように膨らんで垂れ下がっていた。7月に入ってヤマユリが一斉に開花し、林道にほのかな甘い香りがただよ。軍備に浪費する金を環境に投資したら、この地球はもっともっと住みやすくなる。



会計報告 (08.05.19 ~ 08.07.22)

【収 入】

1 先月からの繰越	214,771
2 当期の収入	5,000
(1)会費収入	
①維持団体	0
②維持個人	0
③参加団体	0
④参加個人	0
⑤通信会員	5,000
(2)カンパ収入	0
(3)運動収入	0
(4)預金利子・資料収入	0

【支 出】

3 当期の支出	32,516
(1)郵送費	27,468
(2)文具・備品	3,148
(3)振込手数料等	80
(4)分担金	0
(5)ロッカー代	0
(6)雑費・備品	1,820

【残 高】

4 次月への繰越	187,255
----------	---------

月刊「キャッチピース」 発行●脱軍備ネットワーク・キャッチピース 編集●キャッチピース編集委員会  
 連絡先●232-0065横浜市港北区高田東3-38-15田巻一彦方 電話・fax●045-531-1341 / e-Mail: QZT04441@nifty.com  
 郵便振替口座●00160-7-136148「キャッチピース」 定価●100円 (通信会員年間3,000円)